

盆踊りの力

郡上白鳥踊りの場合

吉田 邦子

日本大学大学院総合社会情報研究科

The Bon Festival Dance as a Positive Reinforcer

A Reflection on the Bon Festival Dance of Gujoh Shirotori.

YOSHIDA Kuniko

Nihon University, Graduate school of Social and Cultural studies

Problems that society faces today include the refusal of some children to go to school and the tendency of some young people to withdraw into themselves. These problems have arisen in a time of increasing pressure on the individual to conform to social norms, that is, when negative reinforcers work. Such pressure, no matter how well borne, does not lead to a satisfied life. I believe that direct communication holds the key to resolving this problem. Only through contact with other people can we acquire the vitality needed to maintain a healthy social life. With this in mind, I recently carried out a research on the Bon Festival Dance of Gujoh Shirotori. It was suggested that the Bon Festival Dance represents a source of positive reinforcer is backed up by the results of questionnaires. Analysis of the results shows that encouragement is gained through the fast rhythm of the dance, an affinity with the people who are sharing the experience.

序論

現代の社会背景に散見する問題点

現代社会は飛躍的に科学技術の進展を遂げた、とりわけ IT 機器の開発、浸透の時代といえる。コンピューターは様々な分野で活用され、我々の生活を煩雑な労働から多く解放していった。一方、自分でできることを他人や機械に任せてしまう事は、あらゆる種類の不快回避へとつながり、生活のすべての行動が嫌悪化し、そこから逃れ阻止するものが何も残らない所への逃避にまで行き着いてしまう（スキナー、1996）。その結果、近年、引きこもりや不登校という現象が問題として注目されるようになった。自ら社会や他人に働きかけなくても、居ながらにして全てをかなえてしまえるかに見える社会の状況が、これらの問題を助長している。文部科学省の調査によれば全国の不登校児童は平成 9 年度に小学校で前

年の 6.5% 増、中学校で前年の 13.2% 増であった。それが翌年平成 10 年度には小学校で 25.2%、中学校で 19.1% も増加している。平成 11 年には減少に転じたが、平成 12 年度以降は再び上がっている。高校の退学率で見れば、平成 14 年度は全体の 2.3% に当たる 8 万 9 千人が中途退学し、その理由は 40% 近くの生徒が学校生活・学業不適應により退学している（文部科学省、2004）。内訳について見ると、高校生活に熱意がない、授業に興味がわからない、人間関係がうまく保てない、学校の雰囲気合わない、などとなっており、17% が人間関係がうまく保てない為退学しているのである。教育機関において人間関係は出席率に大きく反映し、うまくコミュニケーションを取ることが、学校での学習活動継続に大きな効果を及ぼすことが明らかにされている（荒木 2003）。

また、現代社会では人の行動は他から強制力をもって規制され、嫌悪的な制裁処置から逃れるために

仕方なく行動するといった事象が多くの場合随伴されている。

郡上白鳥踊りの特徴

岐阜県白鳥町で踊られる盆踊りは、8月の徹夜踊りに3日間で7万人ほどが参加する。踊ることを純粹に楽しむ素朴な良さを保ち、我々参加者を受け入れる白鳥町の人々の暖かさは、この踊りの真髄を「踊りの輪は人の和」というスローガンで表していることにもよく表れている。

踊りの特色はリズムに良く表れ、緩急が混在し変化がある。リズムは速く躍動感に満ち、そのリズムに乗って下駄を鳴らし跳ねることで爽快な気分になれる。また、各自足の上げ方、跳ね方を調節することで自分の体力に合った踊り方ができる。この踊りは年齢を問わない踊りであり、長時間踊り続けることができ、しかも、上手下手を問わない誰でも気楽に参加できる踊りである。また、白鳥踊りは伝統ある踊りである。盆踊りのルーツともいえる拝殿踊りが伝承されている数少ない踊りであり、このことは平成8年白鳥町重要無形民俗文化財、平成13年岐阜県重要無形民俗文化財、平成15年国の無形民俗文化財、地域伝統芸能大賞を授与されていることによく表れている。文献においては江戸期のものにこの踊りの記述が遺され、歌詞の中にも江戸期の事項が語られるものがある。このような唄を演奏する囃し方の生演奏と踊り手とが掛け合いながら、夜を徹し明け方まで踊られる。そこに人々を惹き付ける大きな魅力が存在する。

本研究の目的と仮説

前述の嫌悪的制裁措置の他にも好子により人の行動は強化される。好子とは、心理学の中の行動分析学の用語で、ある行動を取った直後に表れる事象が、その行動を将来増加させる時、その事象を指す言葉である（杉山・島宗・佐藤・R.W.マロット・E.マロット,2002）。活動すること自体がその活動の結果として後続し、その活動頻度を増加させるもの、つまり活動それ自体に内在する報酬が、行為の結果として行動の出現に後続するものを行動内在的好子という（杉山他,2002）。

人間が人生を生きがいの有るものとして考え、自立的に生きることは、外から動機付けられることと比べ、創造性、責任感、健康な行動、変化の持続性などの点で優れている（デシ・フラスト,1999）。興味深さから生じる自発的な行動には他への報酬の期待はない。このような好子が働いている時、我々は疲労から解放され、自由で自発的な行動から大きな達成感や満足感を得られるであろう。現代社会は強制的に他から規制された行動を強いられる。行動内在的好子を明らかにすることは、現代社会が抱える問題解決の発端となる。本研究では、毎年7万人が自発的に参集する岐阜県郡上郡白鳥町の盆踊りを研究対象とした。アンケート調査により白鳥踊りの特徴を明らかにし、白鳥踊りが人々を熱中させるもの、つまり行動内在的好子の一端を解明することを目的とする。それは白鳥踊りの特徴から、第1に白鳥踊りの持つリズム・テンポのよさ、第2に同じ場を共有することで得られる充足感、第3に踊ることで得られる高揚感・没頭感であるという仮説を立てた。

方法

被験者

被験者は盆踊りを何らかの形で体験した人を選び、特定の盆踊り愛好家のサークル、実際の白鳥踊り盆踊り会場の参加者、かつて盆踊りに参加の経験のある人を対象とした。性別・年齢・職業については特別な選定をせず無作為でアンケートに答えてもらった。

被験者として選定した人々の状況

a・東京都区内の盆踊り参加経験者47名（以後、東京地元盆踊り）、b・B0N2001という盆踊り愛好家のサークル49名（以後、東京盆踊り愛好会）、c・白鳥踊り愛好家のサークル67名（以後、白鳥踊り愛好会）、d・白鳥踊り徹夜踊りの参加者229名（以後、白鳥徹夜踊り）合計392名。

各グループは次のようにして選定された。aについては、東京都内の筆者の出身地の人々を対象とし

た。b については、インターネットで盆踊りのサイトを検索し、全国の盆踊りの講習会を見つけたことで協力をお願いした。c については白鳥踊り愛好者のサークルの紹介を受け、協力をお願いした。d については現地で保存会会長、観光協会会長とコンタクトを取り、本年の徹夜踊り会場で、参加者に直接アンケートを実施する許可を得た。

各グループに対するアンケートの取り方

a のグループに対しては郵送で配布し、回答後返送させた。b のグループに対しては踊りの講習が終わった後でその場所でアンケートに答えさせた。c のグループに対しては郵送配布し、回答後、郵送又は直接提出させた。d のグループに対しては白鳥徹夜踊り会場においてテーブル上にアンケート用紙と回収箱を置き、踊り開催中に回答させた。

被験者に対する同意と説明

アンケートの使用目的、統計的処理による分析でありプライバシーは守られること、質問への回答は強制するものではないことを説明した。

材料

アンケートの項目設定については、事前に聞き取り調査を実施し、作成した。聞き取り調査は白鳥町にて保存会会長内ヶ島喜造氏、観光協会事務局長瀬木哲郎氏の協力を得て実施し、白鳥踊りの特徴や徹夜踊り実施の組織運営について、また、今後の課題などについて調査した。アンケートは、何故これだけ沢山の人が外的な報酬、つまり付加的好子を与えられることなく参集するのか、次回もまた参加したいと思うのは何故なのかを明らかにすることを目的とした 6 種の設問分類を設定し、各々 4 項目～6 項目の質問項目を作成した（付録）。

まず、回答者の背景を問うものとして、項目 1 から 10 までのフェイスシートを設けた。フェイスシートでは性別・年齢・参加した回数・次回参加の希望の有無・踊ることそのものに対する好感度・参加者の出身地・他者との関わりあいにおけるコミュニケーションの度合い・踊り以外の趣味の有無を尋ね

た。白鳥踊り愛好家の c のグループについては第 5 項目を 9 の質問に細分化し、選択肢から 1 つだけではなく該当する全てのものを選んでもらう複数回答とした。また、アンケートの最後にこの踊りを始めた動機について、始める前と後とで変わったことはあるか、他の盆踊りと比較した時にどこに違いや共通点を感じるか、どこに魅力を感じるかについて自由記述法により解答する項目を設定した。

実際の踊りについては 6 種の設問に分けて項目を設定し、11～14 までが身体的興奮度を問うもの、15～19 までが参加することそのものについての満足度を問うもの、20～24 までが自己開放と他者への親密感の度合いを問うもの、25～30 までが文化的要因を問うもの、31～35 までがリズム感や感性に訴えかける要因について問うもの、36～40 までが踊れることのステータス度を問うものとなっている。項目 11～40 までは 5 段階評定法により回答してもらった。本研究で使用したアンケート上で「この踊り」という表現は、白鳥踊り愛好会と白鳥徹夜踊り参加者については、白鳥踊りを対象としているのに対して、東京の 2 つのグループにとってはその時に踊られている踊りを指すことになる。

アンケートの分析方法

アンケートで得た資料の分析はフェイスシートのそれぞれの項目については比較しやすいようにグラフ化し、男女と年齢のデータをクロスさせるなど、グループの特徴を明確にした。特にコミュニケーションの度合いを測定する項目は 7 から 9 までが設定されており、この項目を 1 つのカテゴリーとして合体させた合計点で表した。

また、フェイス 1 から 10 の項目の集計は年齢においては 60 代以上を 1 つのグループと見なして、処理した。5 段階評定法については回答欄の選択肢に上げられているものの中で、左側から順に 5, 4, 3, 2, 1 と配点し処理した。その他、はいは 1 点、いいえは 2 点とした。

実際の踊りについての項目は、質問に対して程度の強弱を 5 段階に設定した。採点は「強くそう思う」から順に 5 点、4 点、3 点、2 点、1 点の 5 段階とした。

また、t検定や分散分析によりグループ間の有意差を調べ、さらに因子分析を実施し、各項目にどのような因子が多くを負荷を与えているかを求めることによって白鳥踊りの特徴を調べた。

結果

参加者の男女比、年齢構成を図1～図4に載せる。

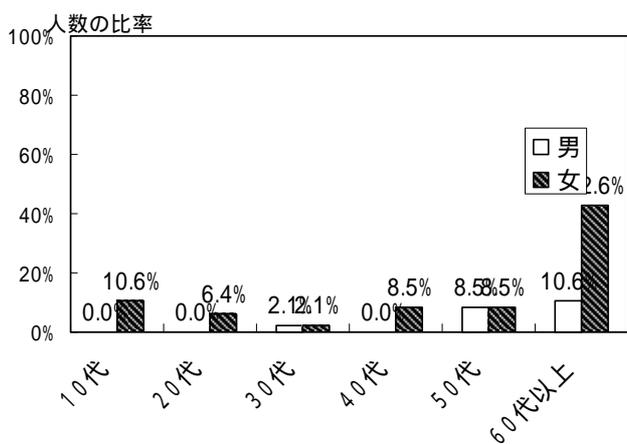


図1．東京地元盆踊り参加者年齢層

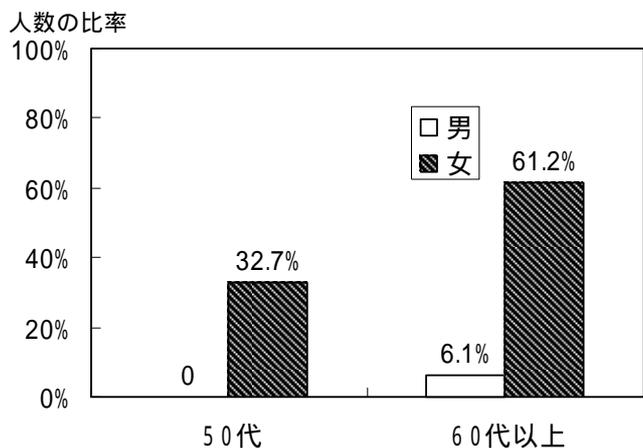


図2．東京盆踊り愛好会参加者年齢層

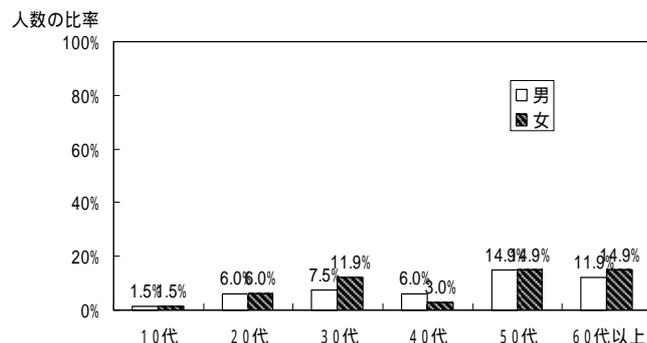


図3．白鳥踊り愛好会参加者年齢層

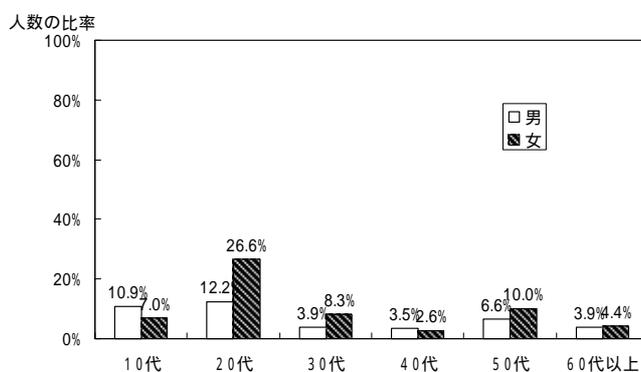


図4．白鳥徹夜踊り参加者年齢層

次に参加回数を見ていくと、東京地元盆踊りの被験者のグループは2回以上5回未満という回答をした人が多く、この盆踊りがあまり浸透していない様子であるのに対して、白鳥徹夜踊りでは初参加と10回以上の参加が多く、毎年恒例にしても何年も通い続けている人が多いことが分かる。意外にも20代の参加者に5回、10回以上の参加回数を数える人が多かった。初めて参加した後、この盆踊りに惹かれてリピーターとなる人が多いことを示す。また、次回に参加したいという意欲については、東京地元盆踊りグループは3分の1以上の人が次回参加についてどちらとも言えないと回答し、東京盆踊り愛好会の参加者は次回参加の意欲を60%以上の人がそう思うと答えている。しかし、両グループとも次回参加の意志が「強く有る」には至っていない。

それに対し白鳥の2グループについての特徴は、次回参加の希望を持つ参加者は、両グループとも90%を越える高い数値となっている。更に「強く有る」と回答した人がどちらも50%を越えている。次に4グループの参加者の人間関係についてまとめてみると、近所付き合いの人間関係をどの程度親密に結ぶのかについてはだいたい半数が希薄であり、半数が濃厚であった(表.1)。これは年齢差や都内・地方の違いがあるこれらのグループを対象に行なったにも拘らず、差がないという結果となった。

次に東京の2グループと白鳥の2グループのそれぞれをまとめ、全体を2つに分け、項目8「人と会話をする事で疲れを感じる事がよくある」の結果を比較した。全体を2グループに分ける根拠は、対象とする踊りの違い、4グループ間の分散分析及び2グループ間のt検定における結果、項目の平均値からによる。数値については図5、後述の検定結果に載せる。人との会話における疲労感に果たして差が出るのかどうかを調べた。結果は両者間にかなりの差があることが示され、東京グループでは31.9%、白鳥グループでは73.2%もの人が疲れを感じると回答している。白鳥のグループで何故このように疲労感を抱く割合が大きかったのかは、考察で述べることにする。

次に材料として用いたアンケートの踊りの特徴を特定する為に設定した項目が、心理尺度として信頼性のあるものか否かを、クロンバック係数を算出して確認した。フェイスシートを除外した項目11から40までの全体値、各グループ値は共に0.8以上で、特に全体値は0.935であった。有効サンプル数392だった。通常係数については学力検査で0.8以上。性格や態度などの心理特性を測ろうとする場合は0.7以上を求められる。よって、今回実施したアンケートの数値は十分この範囲を越えるものであり、アンケートが信頼性の認められるものである事が確認できた。

次に項目11から40までの4グループの平均値間の分散分析をおこなった。各項目とも有効サンプル数392を対象に行なった結果、項目30の踊りの男性らしさ・女性らしさにおける主効果は有意ではなかった($F(3, 388) = 0.067, p > .61$)、項目32

の踊りに安らぎを感じるにおける主効果は有意ではなかった($F(3, 388) = 0.675, p > .56$)。さらに項目37の上手に踊ることの難しさについての主効果は有意ではなかった($F(3, 388) = 1.494, p > .21$)。しかし、その他については有意差が認められた為、対象とした4グループは同一、均質ではない別個のグループであるといえよう。

次に全項目について4グループ間相互のt検定を行ない、各グループの特徴がどこにあるのか、また、異質なグループはどれかを判定することとした。

t検定の結果有意差が認められたものは次の通りである。東京地元盆踊りと東京盆踊り愛好会との間で有意差の出たものは22項目、白鳥踊り愛好会との間で25項目、白鳥徹夜踊りとの間で24項目であった。同様に、東京盆踊り愛好会については東京地元盆踊りとの間で22項目、白鳥踊り愛好会との間では13項目、白鳥徹夜踊りとの間では14項目となった。白鳥踊り愛好会については、東京地元盆踊りとの間で25項目、東京盆踊り愛好会との間で13項目、白鳥徹夜踊りとの間で4項目となった。白鳥徹夜踊りに関しては、東京地元盆踊りとの間で24項目、東京盆踊り愛好会との間で14項目、白鳥踊り愛好会との間で4項目となった。以上の結果から、白鳥踊り愛好会と白鳥徹夜踊りとの間には有意差が殆ど見られず、等分散の比率が高かった。この2グループは極めて類似した集団といえることが明らかとなった。

次に4グループの項目11から40までの平均値を求めた結果白鳥2グループは近い値を示した(図5)。

以上、4グループの分散分析、各項目の2グループ間でのt検定、項目の平均値、対象とする踊りの種類から東京の2グループ、白鳥の2グループをそれぞれ1つにまとめ、2つのグループ間でt検定を行ない、白鳥踊りの特徴を明らかにする。等分散にならなかったものについては、ウェルチの値を取った。その結果項目13, 21, 29, 30, 32, 37を除く24項目で有意差が認められた。

白鳥踊りの特徴を明らかにする為、更に4つのグループの被験者全てを対象として、項目11から40までの因子分析を行なった。各因子が各項目においてどれ程の比重を占めているのかを明らかにする

ことにより、白鳥踊りに参加する人々の参加についての好子を明らかにする。

各因子の各項目における負荷の程度を表2の因子負荷量表で見ていく。また、表3は各因子の個人因子得点表から算出した各因子の負荷量をグループ別に示したものである。

因子固有値において因子1が占める寄与率は36.78%であった。その他の因子の寄与率は以下の通りであった。因子2(5.75%)、因子3(4.50%)、因子4(3.62%)、因子5(3.22%)。因子1は他の因子に比べ負荷量が高く、踊り参加に大きな影響を与える因子といえる。項目19、11、16、15、27、26、23までが0.7ポイント代の数値を示している。因子1は白鳥の2グループ共にプラス得点を示し、東京の2グループとの違いがはっきり現れている(表3)。負荷量の多い項目を見ると(表2)人と踊ることの満足度が高い数値が表れている。よってこの因子を「開放的共有感」と命名する。

因子2の要素を見ると、負荷量の高い項目は0.3ポイント代に38、37、39、40が位置する。因子2は踊り方にこだわりの思いを抱く度合いを測る、「習得達成感」と命名する因子である。微少なながら東京盆踊り愛好会が最も高い数値を示している(表3)。

因子3は0.3ポイント前後に17、26、33、27が高負荷量を示している。また、項目16と28の間で数値に開きが出ている。因子3は多様な項目にわたり、幅広い参加動機を意味づけるものと位置づけられる(表2)。踊ることにより盆踊りに参加することの楽しさ、振り付けやスピード感、乗りのよさの他に伝統を感じる項目までが負荷の高い項目となっている。因子3は白鳥徹夜踊りが最も因子平均の高い数値を示し(表3)、次に白鳥愛好会のものが続き、東京の2グループはどちらもマイナス値になった。以上のことからこの因子を「潜在的民族帰属感」と命名する。

因子4は負荷量の数値が30と34の間で大きく離れ、34までをその特徴づけの項目として捉える。マイナス因子では37が-0.3ポイント代で、プラス負荷と同量のマイナス負荷がかかっている。因子4は踊りが覚えやすいものであるという要素を含み、初心者に広く門戸を開き、始めることに抵抗感を覚え

させないといった項目に大きな負荷を現している(表2)。逆に踊りに対する難しさを測る項目には、マイナスの負荷量を示している(表2)。以上のことからこの因子を「参加への娯楽的安直感」と命名する。

因子5は項目14と15の間で差が開いており、マイナス負荷は22と21が0.3ポイント代となっており、14のプラス負荷と同量の負荷がかかっている。因子5は踊っている時に何もかも忘れて夢中になっていることを問う項目に高い負荷を示し、逆に他者に対する思いについてはマイナスの負荷量を示している(表2)。これらを合わせて考察した結果、この因子を「自己没頭感」と命名する。因子得点で見れば白鳥徹夜踊りのみがプラスの値になっている(表3)。

次に各因子の因子得点について4グループ間で分散分析をし、各グループにおける負荷に有意差があるかを調べた。結果は因子2についての主効果は有意ではなかった($F(3, 388)=1.101, p>.34$)。しかし、因子1についての主効果は有意差が認められた($F(3, 388)=30.957, p<.01$)。因子3の主効果についても有意差が認められた($F(3, 388)=17.768, p<.01$)。因子4の主効果についても有意差が認められた($F(3, 388)=3.7747, p<.05$)。因子5についての主効果も有意差が認められた($F(3, 388)=3.832, p<.01$)。

表1. 近所付き合いにおける対人関係

近所付き合い	対人関係・希薄	対人関係・濃厚
東京地元盆踊り	61.7%	38.3%
東京盆踊り愛好会	43.5%	56.5%
白鳥踊り愛好会	59.7%	40.3%
白鳥徹夜踊り	48.9%	51.1%

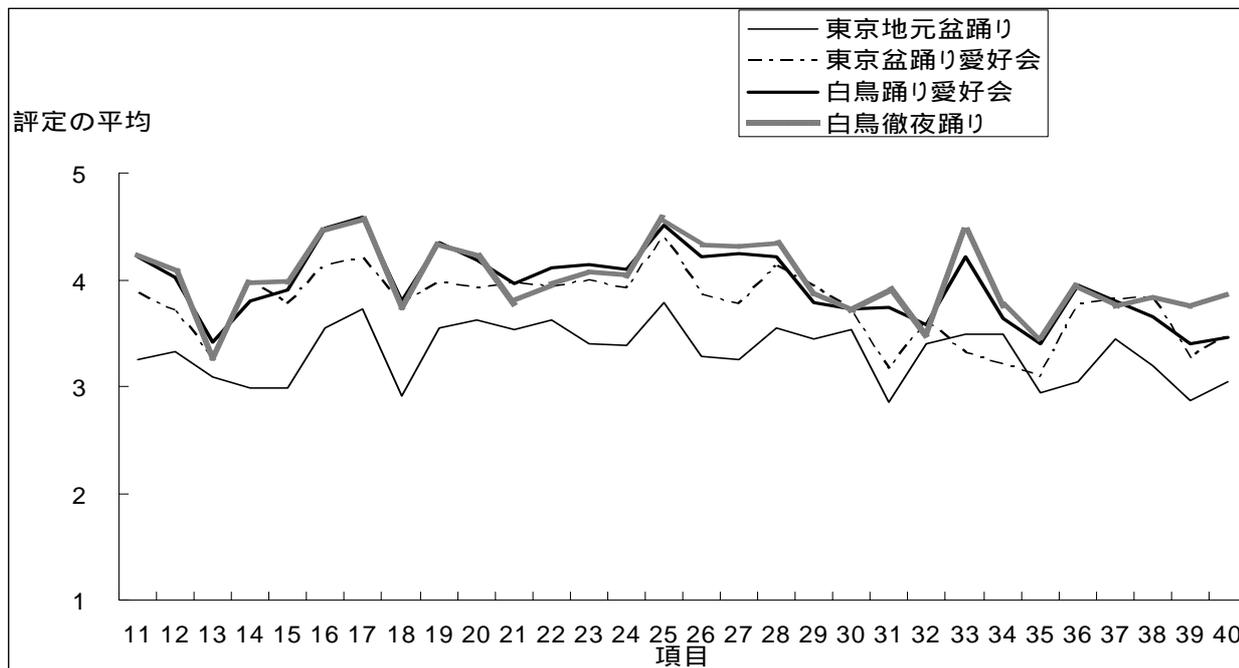


図 5.4 グループの各項目における平均値

表 2. 因子負荷量表

変数名	因子 1	変数名	因子 2	変数名	因子 3	変数名	因子 4	変数名	因子 5
37	0.214173	34	-0.28452	22	-0.35964	37	-0.30384	22	-0.32276
31	0.325682	12	-0.27689	21	-0.35473	23	-0.27298	21	-0.31973
34	0.34489	17	-0.23677	13	-0.28966	22	-0.27275	29	-0.22684
35	0.455957	14	-0.20965	30	-0.25084	38	-0.19708	23	-0.21023
38	0.459977	16	-0.20434	35	-0.23518	15	-0.18652	24	-0.18874
13	0.476702	13	-0.18541	23	-0.22015	17	-0.18549	30	-0.16116
40	0.484125	21	-0.17209	32	-0.18579	21	-0.14187	26	-0.14418
33	0.492806	18	-0.16118	14	-0.17803	19	-0.12136	28	-0.13024
32	0.497621	23	-0.15755	18	-0.17073	14	-0.11956	25	-0.13014
30	0.524953	11	-0.15227	12	-0.1184	11	-0.11626	27	-0.10775
29	0.548737	22	-0.13995	39	-0.11592	25	-0.09213	20	-0.09565
39	0.578156	15	-0.12707	15	-0.0938	16	-0.08488	32	-0.08318
21	0.587366	35	-0.07054	37	-0.09365	24	-0.07828	34	-0.07496
25	0.60787	19	-0.04173	29	-0.08801	20	-0.03454	19	-0.06731
36	0.614865	20	-0.03368	36	-0.0854	26	-0.01678	39	0.026891
12	0.63219	33	0.010378	38	-0.06312	18	0.052584	17	0.035352
22	0.644117	32	0.029821	24	-0.02952	40	0.078194	31	0.036702
14	0.659535	24	0.03916	40	-0.01672	12	0.086777	40	0.097125
28	0.664513	27	0.055995	11	0.013498	27	0.091567	36	0.100735
24	0.67314	28	0.06087	34	0.100429	39	0.093748	18	0.102693
18	0.676882	25	0.089738	31	0.107109	36	0.100565	33	0.119157
20	0.677461	26	0.108213	20	0.131218	13	0.114497	11	0.124561
17	0.691658	36	0.169227	28	0.206564	31	0.115183	38	0.160354
23	0.713485	31	0.181849	16	0.248158	28	0.163169	35	0.1727
26	0.718187	30	0.233159	25	0.252039	29	0.213533	16	0.188014
27	0.735797	29	0.290393	19	0.261255	33	0.234961	13	0.22861
15	0.741587	40	0.365267	27	0.287625	30	0.243989	37	0.229499
16	0.742878	39	0.39136	33	0.29774	34	0.341402	12	0.234334
11	0.752274	37	0.560551	26	0.315536	32	0.344797	15	0.282424
19	0.784676	38	0.644007	17	0.369297	35	0.399695	14	0.340279

表 3.各因子負荷量のグループ平均値

各因子のグループ平均	因子 1	因子 2	因子 3	因子 4	因子 5
東京地元	-1.105106542	-0.01694223	-0.522059822	0.188913187	-0.308047203
東京愛好会	-0.215849298	0.085434763	-0.534561798	-0.298410524	-0.088562042
白鳥愛好会	0.171270293	-0.17301564	0.047038467	-0.119357389	-0.089498975
白鳥徹夜	0.222888736	0.035816785	0.207767669	0.060000513	0.108358886
全体	1.79518E-08	3.6711E-08	8.62784E-08	-6.00926E-08	-1.28795E-08

考察

以上のアンケートを基に実行したフェイスシートクロス集計、F 検定、t 検定、分散分析、各項目の平均値に現れた結果から次のことが言えるだろう。

1・白鳥踊りは他の盆踊りと異なる特徴を持つ。

4 グループの分散分析の結果は、30 項目中 3 項目以外で有意差が認められ、また、各グループ相互の t 検定においては明らかに白鳥の 2 グループ間での有意差が殆ど認められず、他と区別できることが分かった。更に、東京 2 グループと白鳥 2 グループをまとめ、2 グループ間の t 検定を行なった結果、30 項目中 6 項目以外で有意差が認められた。また、各項目の平均値を見ると図 6 において白鳥の 2 グループの値が近似となっていることが分かる。このような事から、白鳥踊りには他の盆踊りにない幾つかの特徴が内在し、この特徴に惹かれる人々が参加してくるといえる。本研究の目的である、他と違って大勢が集まる白鳥踊りの好子を明確にすることが可能であることが、以上の結果から支持された。

2・白鳥踊りに参加する人は対人関係において何らかのストレスを抱く環境にある人が多い。

白鳥踊りの参加者についてフェイスシートの集計を考察すれば、比較的若い人々の参加が多く、そのうち半数以上の人々は週 5 日以上の外出をする、何らかの職業を持つか又は学校へ通うかの人々である。参加者は対人関係にストレスを持つ人が多く、踊る

ことで明日の為の活力を得て、精神の健康を回復させるのである。

3・白鳥踊り参加者の次回参加意欲は非常に高い。

上記でも述べたように、白鳥踊りが持つ好子が再び人々を参加へと導いている。参加者の 94.4%が次回の参加を希望し、71.8%の人がリピーターである。

4・白鳥踊りはリズムの速い、スピード感溢れる乗りのよい踊りである。

このことは図 6 における項目 31、33 の平均値が、他グループを圧倒して高いことで明らかである。t 検定においても、東京のグループと白鳥のグループの間には有意差が現れている。以上、結果は白鳥踊りの好子としてリズム、テンポの良さが働くという仮説を支持した。確かに他の盆踊りで流される曲や振り付けを考えると、白鳥踊りのリズムは速く、場所移動の足の運びも意外性があるとおもしろい。他では見られない白鳥の特徴の一つであり、人々が惹きつけられる大きな好子の一つとして数えられる。白鳥踊りに参加する人々に若年層が多いのは、このような好子が働いていると考えられる。

5・白鳥踊りはその伝統的な価値が評価される踊りである。

白鳥踊りがリズム感のある踊りであるといっても、欧米風のリズムなのではない。日本古来の音律に、

伝統的な楽器と歌詞を用い、下駄でリズムを打ち鳴らす踊りは、体内に流れる民族独自のリズムに呼応してくる為、無理が無く、軽快に身体を動かすことができる。アンケートの項目 25 は伝統的であるか否かに答えるものであるが、白鳥の 2 グループとも最高の平均値を示している(図 5)。若年層の人々(10 代、20 代)の伝統的価値を認める率が 94%と以外にも高いのは、日常生活で伝統的なものに触れる機会が少ないからであろう。自らの文化的ルーツを発見し、ただ見るだけでなく民族に脈々と伝えられる音楽に乗って踊ることができる盆踊りである。日本人である事を再認識し、共に踊る大勢の人々と同朋である事の連帯を強化される、個人にとって前向きなしかも自由な経験となるものが、白鳥踊りの好子となっている。

6・同じ場を共有することで自己開放、他者への親近感を大きく抱くことのできる踊りである。東京のグループと白鳥のグループの項目 20~24 についての 2 群の t 検定は、自己開放と対人コミュニケーションの度合いを測るものとなっているが、その結果を見ると項目 21 以外のものに有意差が出た。また、項目の平均値は(図 5)白鳥の値が項目 21 以外のすべてにおいて高くなっている。以上のことから、白鳥踊りには自己開放し、他者に対して親密感を抱いていくという好子が存在している事が分かる。以上、結果により、好子として同じ場を共有することの充足感が働くという仮説は支持された。現代の閉鎖的社会現象の中にあって、参加する人々は自己開放し、同じ場を共有していることで他者に親しみを抱き、共に踊り明かすことに満足を感じる。現実生活のおかれる状況が閉塞的であるからこそ、人間の本能ともいえる他者との直接対面の交流を図ることが必要となってくる。ただ踊り明かすという目的に共に向かうことにより、他人に親しみを抱いていく。他者との交流に自己開放は必要であるが、傷つくよりはむしろ閉鎖的になり、他者と関わることなく引きこもりや仮想現実すべてを求め、やり過ぎしてしまう選択は、生きるという実感からは大きく離れていく。項目 21 は「見ず知らずの人と打ち解けることができるか否か」を問うものであ

るが、この項目の得点が低かったのは、互いの背景を教え合い、相手の立場や状況を知った上で打ち解けあう事とは別の親密さを人々は抱いている事を示す。社会が複雑になれば、そこには立場の優劣が起こり、社会機構が単純であった頃には必要の無かった多くの事を説明しなければならない。そのような説明をしなくとも、ただ、身体を動かし軽快なステップを踏むことで、他者と交流することが可能なこの踊りに惹かれ、多くの人々が参集して来るのである。

さらに、因子分析の結果、因子負荷量を考察すると次のような特徴が指摘される。

解放的共有間を表す因子 1 の要素から、自ら身体を動かし大勢と共に踊ることの楽しさを示し、白鳥踊りとその場を共有し、共に踊ることに満足と喜びを感じる踊りであることが分かる。よって、好子として同じ場を共有することの充実感が働くという仮説は支持された。

因子 2 は習得達成感を表す因子であり、楽しみや開放感よりは上手に踊りたいという意識が強く働き、踊りへのこだわりが伺える因子である。故に微少なながら東京盆踊り愛好会の負荷の数値が高くなっているのである。

因子 3 は潜在的民族帰属感を表すと解釈され、この要素により多くの人々の参加が動機付けられ、踊りに対して好感を抱くものとなっている。この白鳥踊りが持っている開放性は参加する者を受け入れ、多くの人々が満足し、踊りに夢中になり楽しむことができるが、それは参加する側に、踊りの音律やリズムに感応する潜在的な民族固有の感性が備わっているからである。だからこそ初めて参加する場合でも、違和感が無く無理なく速いリズムに乗って軽快に踊ることができ、深い満足感を得ることができる。参加する人々の中に伝統の重みが印象付けられるものが、随所に存在する。それは古来の音律であり、古来の楽器であり、また歌詞の言葉や内容であり、踊りの中に組み込まれた山村の暮らしに根付いた所作の一端であり、白山信仰がかつて栄えこうして大勢の人々が集ったことへの幽かな名残であり、音頭取りの絶妙な節回しである。このような事象に触れ、また夜を

徹して踊ることに太古の土俗的な踊りの匂いを感じ取ることが、普段は意識することもない、民族の血への帰属を感じ、そこに心地よさや充足感を得るのである。

因子4は参加への娯楽的安直感を表していると考えられ、東京地元盆踊りが最も高い得点を示し、次いで白鳥徹夜踊りとなっている。東京、白鳥両愛好会はマイナス値を示し、娯楽性を追求する為に人々が集まる訳では無いことが表れている(表2)。

因子5の要素である自己没頭感は白鳥徹夜踊りのみにプラス負荷がかかっており、一切を忘れ踊りに無我夢中になれる要素が白鳥徹夜踊りには存在することが分かる。よって、高揚感、没頭感が好子となるという仮説は支持された。

以上、結果から仮説は3項ともすべてが支持された。

最後に、本研究の調査対象となった被験者の母集団の男女比、人数、年齢構成に差があるが、差が有るということそのものが、白鳥と他の盆踊りの違いを如実に表している(図1~図4)。すなわち、白鳥以外の盆踊りでは若年層を引き付ける要素に欠けるものがあり、盆踊りは高齢の人々の参加により細々と続いているものでしかないということが分かる。しかし、特色のある盆踊りは関東近県を初め、全国にも沢山存在し、多くの参加者を集めている。それらとの比較は今後していかななくてはならず、そうすることで白鳥の別の特徴も明らかになり、新たな発見や理論の再確認もできるに違いない。

引用文献

- 荒木正昭 2004 高等教育における人間関係的訓練の導入と有効性の考察 日本大学大学院総合社会情報研究科紀要、第4号、175 - 186
- デシ、E.L.・フラスト,R(桜井茂男訳) 1996 人を伸ばす力 新曜社
- 星野紘 2002 人はなぜ歌い踊るのか 勉誠出版
- 文部科学省 2003 平成13年度児童生徒の問題

行動等生徒指導上の諸問題に関する調査 速報 文部科学省 2004 平成14年度公・私立高等学校における中途退学者数等の状況調査 教育委員会月報

プライア、K.(河嶋孝・杉山尚子訳) 2001

うまくやるための強化の原理 二瓶社
杉山尚子・島宗理・佐藤方哉・マロット.R.W・マロット,M.E. 2002 行動分析学入門 産業図書

スキナー、B.F.(岩本隆茂・佐藤香・長野幸治訳) 1996 人間と社会の省察 勁草書房

付録

盆踊りに関するアンケート H.15.

私は日本大学大学院生で総合社会情報研究科の人間科学専攻2年に在籍するものです。この度、研究テーマに「郡上白鳥おどり」を取り上げ、盆踊りの特徴を明らかにしたいと思っています。それをまとめて何によって多くの人が盆踊りに魅せられるのかを解明したいと思っています。つきましては、以下の質問に語群から最もそうだと思う項目を選び、で囲んでください。

1 あなたの性別

男 女

2 あなたの年齢

10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代 80代 90代 その他

3 この盆踊りに今まで何回参加していますか。

(10回以上 5回以上 2回以上 今年で2回目 今年初めて)

4 次もまた参加したいと思いますか。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない そうは思わない 全くそう思わない)

5-1 この盆踊り行事の中で参加したことのあるものはどれですか。いくつでも をつけてください。

おどり発祥祭 栄町おどり講習会 ゆかたコンクール
親子おどりコンクール 新栄町おどりコンクール
徹夜おどり 拝殿おどり おどり納め
変装踊りコンクール 徹夜おどりのコンクール
徹夜おどりの免許証
その他 ()

5-2 見ていて楽しい行事はどれですか。

おどり発祥祭 栄町おどり講習会 ゆかたコンクール

親子おどりコンクール 新栄町おどりコンクール
 徹夜おどり 拝殿おどり おどり納め
 変装踊りコンクール 徹夜おどりのコンクール
 徹夜おどりの免許証
 その他()

5-3 一番盛り上がるものはどれですか。

おどり発祥祭 栄町おどり講習会 ゆかたコンクール
 親子おどりコンクール 新栄町おどりコンクール
 徹夜おどり 拝殿おどり おどり納め
 変装踊りコンクール 徹夜おどりのコンクール
 徹夜おどりの免許証
 その他()

5-4 是非参加したいものはどれですか。

おどり発祥祭 栄町おどり講習会 ゆかたコンクール
 親子おどりコンクール 新栄町おどりコンクール
 徹夜おどり 拝殿おどり おどり納め
 変装踊りコンクール 徹夜おどりのコンクール
 徹夜おどりの免許証
 その他()

5-5 白鳥踊りの中で一番踊っていて楽しいものはどれですか。

(源助さん シッチョイ 世栄 猫の子 神代
 さのさ 八ッ坂 老坂 場所踊り)

5-6 白鳥踊りの中で一番見ていて楽しいものはどれですか。

(源助さん シッチョイ 世栄 猫の子 神代
 さのさ 八ッ坂 老坂 場所踊り)

5-7 白鳥踊りの中で一番聞いていて好きなものはどれですか。

(源助さん シッチョイ 世栄 猫の子 神代
 さのさ 八ッ坂 老坂 場所踊り)

5-8 白鳥踊りの中で一番盛り上がるのはどれですか。

(源助さん シッチョイ 世栄 猫の子 神代
 さのさ 八ッ坂 老坂 場所踊り)

5-9 1晩の参加でどれくらいの時間踊りますか。

(9時間 6時間以上 4時間以上 2時間以上
 1時間前後)

6 あなたの住んでいる地域

白鳥町 郡上郡内 岐阜県内
 他県に住んでいるが出身は岐阜県内 他県

7 あなたはご近所の人と親せき同様に付き合う。

(はい いいえ)

8 人と会話することで疲れを感じるがよくある。

(はい いいえ)

9 週にどれくらい外出しますか

(毎日 5回以上 3,4回 1,2回 あまり外出は
 しない)

10 踊り以外にも趣味を持っている。

(はい いいえ)

次に、実際踊ってみた時の感想をお聞きます。

11 この踊りを踊っている時、ワクワクする。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
 そうは思わない 全くそう思わない)

12 この踊りを踊ると眠気や疲れが吹き飛ぶ。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
 そうは思わない 全くそう思わない)

13 この踊りは長時間踊っていても疲れを感じない。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
 そうは思わない 全くそう思わない)

14 この踊りを踊っていると他のことは一切忘れ無我夢中になる。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
 そうは思わない 全くそう思わない)

15 この踊りを踊っている時、もっと踊っていたと思った。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
 そうは思わない 全くそう思わない)

16 この盆踊りは楽しい。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
 そうは思わない 全くそう思わない)

17 この踊りを踊っている時、見ているよりも踊った方が楽しいと思った。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
 そうは思わない 全くそう思わない)

18 この踊りを踊っていて、生きている実感を覚えた。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
 そうは思わない 全くそう思わない)

19 この踊りを踊っている時、踊ってよかったと思った。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
 そうは思わない 全くそう思わない)

20 この踊りを踊っている時、開放的な気分になれた。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
 そうは思わない 全くそう思わない)

21 この踊りを踊っていると見ず知らずの人と打ち解けることができる。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない)

そうは思わない 全くそう思わない)

22 この踊りを踊っていると他の参加者に親しみを感じる。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

23 この踊りを踊っていると人と共に踊ることに満足を感じる。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

24 この踊りを踊っていると仲間とより親しくなれる。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

25 この踊りは伝統的な価値があると思う。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

26 この踊りの振り付けはとても好きである。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

27 この踊りの中の足の運びが(例えば蹴ったり、すり足をしたり)とても好きである。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

28 この踊りのメロディーや歌(旋律)が好きである。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

29 この盆踊りは見た感じがとても優美である。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

30 この盆踊りは男性らしさ又は女性らしさがよく表現されていると思う。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

31 この盆踊りのリズムは早いと思う。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

32 この盆踊りは安らぎを感じる踊りだと思う。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

33 この盆踊りはスピード感があって乗りのよい踊りだと思う。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない

(Received:September 30, 2004)

(Issued in internet Edition:October 31, 2004)

そうは思わない 全くそう思わない)

34 この盆踊りは覚えやすく踊りやすい踊りだと思う。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

35 この盆踊りはとても現代的な感じのする踊りである。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

36 この踊りを踊れることは自慢の1つになる。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

37 この踊りを上手に踊ることはとても難しいことだと思う。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

38 この踊りは難しい踊りなので、挑戦しがいのある踊りだと思う。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

39 この踊りが踊れたら踊り手として一人前だと思う。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

40 この踊りは他の人より上手に踊りたいと思う踊りである。

(強くそう思う そう思う どちらともいえない
そうは思わない 全くそう思わない)

・白鳥踊りを始めるきっかけとなった事は、どのような事からですか。

・ 始める前と始めて以後とで何か変化がありましたか。

・ 白鳥踊りの 1) 素晴らしいと思う点について、また、2) 他の盆踊りと同じ点、3) 違う点についていくつでもお書きください。

1)

2)

3)

- ご協力ありがとうございました -